

総合的な学習の時間学習指導案

令和5年9月20日(水) 5校時

第4学年1組 児童数 31名

授業者 久保田 祐美

単元名 西のチカラプロジェクト ～みんないきいき！住みよい町づくりを目指して①～

1 単元目標

探究のサイクル1

- 社会福祉協議会の方々や高齢者へのインタビュー調査を通して、高齢者やそれにかかわる人々の思いや願いに気付くとともに、課題を見つけ、解決の見通しをもって計画を立てることができるようにする。

探究のサイクル2

- 高齢者との交流会について、自分のよさや他者の異なる考えを尊重しようとしながら、集めた情報を整理し効果的な取り組みを見出すとともに、高齢者や福祉に関する見方と考え方の広がり気付くことができるようにする。

探究のサイクル3

- 高齢者に関わる人々との関わりを通して、課題を自分事と捉え自分なりの解決方法を見つけるとともに、自分の学びを振り返り、自己の成長に気付くとともに、地域の一員としてできることを見つけ、地域貢献しようとするようにする。

2 単元設定の理由

(1) 児童の実態

本学級の児童は、前学年時、海田町の魅力について調べ、役場の人と連携し発信する活動を通して、海田町への愛着を高めている。織田幹雄やひまわり、日浦山など、海田町に色々な魅力があることを自信もっている。

しかし、近年のコロナ禍の影響で、地域の方々との関わりが薄く、特に地域の高齢者との関わりがどんどん薄くなっている。このことから、児童は「海田町の高齢者と交流してみたい」という思いをもっている。

課題を解決するために、お互いのよさを認め、力を合わせながら、最後まで学習に取り組むことのできる児童が92.1%であるが、新たに気付いたことや自分自身の変化、新たな課題などを、振り返りの時間に言語化しにくい児童が17.2%である。

(2) 教材について

海田町は、年々人口が増加し、高齢化率は低いものの、高齢化が進んでいる。本単元は、探究課題を「福祉」と設定し、地域の人々への関心を高めるとともに、主体となって地域の人々とつながるために、自分たちができることを考えさせることをねらいとしている。そのために、NHK for schoolの動画教材を用い、高齢者が抱える問題に着目させたり、海田町社会福祉協議会の方々や、「車椅子とことこクラブ」のボランティアの方々と、高齢者疑似体験を行い、高齢者の苦労を体験したりする。自分たちが「何とかしないと！」と思った段階で、身近には元気に暮らす高齢者もいることに着目させ、調べたり体験したりして獲得した高齢者に対する知識とのズレを実感させる。「高齢者の元気の秘訣は何か」という問いをもとに、インタビュー調査等を通して、元気の秘訣が「人と関わること」ではないかと分析させ、主体となって海田町を元気にするプロジェクトを実行していく活動にしていく。

「海田町に暮らすすべての人々が笑顔でいられる町であるためにわたしたちができることは何だろう」を本質的な問いとし、地域の人々とのつながりについて深い学びを実現できるものと考え、本単元を設定した。

(3) 指導について

本中学校区で育成したい資質・能力は、次の3点である。これらを育むために、本単元では、次のような手立てを行う。

資質・能力	手立て
主体性	<ul style="list-style-type: none">・地域の社会福祉施設や「福祉」に関心をもたせるために、NHK for school などの動画教材を視聴させたり、社会福祉協議会の方や高齢者に関わるボランティアの方々から話を聞く場を設定したりする。・「寿大学」で活動している方々がどのような思いをもって高齢者に関わっているのかを聞く場を設定することで、より高齢者の視点に立った交流会にしたいという意欲を高めさせる。・自分自身と関連付けて探究活動に取り組むために、この学習を通して何がどのように変わるかを考える場を設定する。
コミュニケーション力	<ul style="list-style-type: none">・自分の考えをもって話し合いができるように、書く活動を取り入れたり、ワークシートや思考ツールを使って整理したりしながら意見を交流させる。・社会福祉協議会のボランティアコーディネーターの方や、「車椅子とことこクラブ」などのボランティアの方々との関わりをもつ場を設定し、学習を深めさせる。・司会等の役割や話し合う視点を確認し、共通点や相違点を意識しながらまとめさせる。
メタ認知	<ul style="list-style-type: none">・探究活動の際に関わったの方々による他者評価、学習の記録のポートフォリオ、ルーブリックを活用したフィードバックを通して、自己の成長に手応えを感じさせる。・視点を明確に提示し振り返らせることで、自己の学びの深まりに気付かせる。

3 探究課題を解決することを通して育成する資質・能力

【探究課題】 福祉：身の回り的高齢者とその暮らしを支援する仕組みや人々	
知識及び技能	<p>【概念的知識】 生きがいをもって生活しようと願う高齢者の思いや、高齢者が安心して、地域の一員として自分らしく暮らせるまちづくりを進める人々の思いや願いを理解することができる。</p> <p>【技能】 地域の高齢者やそれを支える人とコミュニケーションをとる際に、相手や場面に応じて適切に関わることができる。</p> <p>【学習のよさ】 高齢者や福祉に関する見方と自己の考えの広がりや、高齢者やそれらを支える人と関わりながら探究的に学習してきたことの成果であることに気付く。</p>
思考力、判断力、表現力等	<p>【課題設定】 高齢者や高齢者福祉に携わる人との関わりを通して課題を見つけ、解決の見通しをもって計画することができる。</p> <p>【情報収集】 高齢者や高齢者福祉に携わる人と関わりながら、目的に応じて情報を収集し、蓄積することができる。</p> <p>【整理・分析】 地域の一員として自分たちにできることを実行するために、集めた情報を比べたり、分けたり、関連付けたりするなどして整理し、問題点や改善点を見出すことができる。</p> <p>【まとめ・表現】 学習したことを相手に応じて分かりやすく表現したり、自分の学びを振り返り新たな課題を発見したり、自己の成長に気付いたりすることができる。</p>

学びに向かう力、 人間性等	<p>【自己理解・他者理解】 探究的な活動を通して、自分の考えのよさに気付いたり、異なる意見や他者の考えを受け入れて尊重しようとしたりする。</p> <p>【主体性・協働性】 高齢者と交流する活動について、課題を自分事として捉え、意見の異なる他者の考えを生かしながら、協働的に探究活動に取り組もうとする。</p> <p>【将来展望・社会参画】 自分と地域の将来について、高齢者福祉に関する「人・もの・こと」との関わりを通して、地域の一員としてできることを見つけ、地域貢献しようとする。</p>
--------------------------	---

4 評価規準及びルーブリック

(1) 評価規準

評価の観点		
①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
<p>ア 生きがいをもって生活しようと願う高齢者の思いや、高齢者が安心して、地域の一員として自分らしく暮らせるような町づくりを進める人々の思いや願いを理解している。</p> <p>イ 地域の高齢者やそれを支える人とコミュニケーションをとる際に、相手や場面に応じて適切に関わっている。</p> <p>ウ 高齢者や福祉に関する見方と自己の考えの広がりや、高齢者やそれらを支える人と関わりながら探究的に学習してきたことの成果であることに気付いている。</p>	<p>ア 高齢者や高齢者福祉に携わる人との関わりを通して課題を見つけ、解決の見通しをもって計画している。</p> <p>イ 高齢者や高齢者福祉と携わっている人と関わりながら、目的に応じて情報を収集し、蓄積している。</p> <p>ウ 地域の一員として自分たちにできることを実行するために、集めた情報を比べたり、分けたり、関連付けたりするなどして整理し、問題点や改善点を見出している。</p> <p>エ 学習したことを相手に応じて分かりやすく表現したり、自分の学びを振り返り新たな課題を発見したり、自己の成長に気付いたりしている。</p>	<p>ア 探究的な活動を通して、自分の考えのよさに気付こうとしたり、異なる意見や他者の考えを受け入れて尊重しようとしていたりしている。</p> <p>イ 高齢者と交流する活動について、課題を自分事として捉え、意見の異なる他者の考えを生かしながら、協働的に探究活動に取り組もうとしている。</p> <p>ウ 自分と地域の将来について、高齢者福祉に関する「人・もの・こと」との関わりを通して、地域の一員としてできることを見つけ、地域貢献しようとしている。</p>

(2) 探究のサイクル2におけるルーブリック

資質・能力			B 目標を概ね達成した状態	A 目標を大きく達成した状態
知識・ 技能	メタ認知	イ	地域の高齢者やそれを支える人とコミュニケーションをとる際に、相手や場面に応じて適切に関わっている。	地域の高齢者やそれを支える人とコミュニケーションをとる際に、相手や場面に応じて適切に関わっている。
思考・ 判断・ 表現	コミュニケーションカ	ウ	海田町民として自分たちにできることを実行するために、集めた情報を整理し、問題点や改善点を見出している。	海田町民として自分たちにできることを実行するために、集めた情報を整理し、問題点や改善点を見出し、それらを根拠に効果的な取り組みを講じている。
主体的 に学習 に取り組 む態度	主体性	イ	高齢者が笑顔になる交流会について自分事として考え、自分と違う友達のことを受け入れながら、協働して探究活動に取り組んでいる。	高齢者が笑顔になる交流会について自分事として考え、自分と違う友達のことを生かしながら自分なりの解決方法を見つけるとともに、協働して探究活動に取り組んでいる。

6 授業の実際 探究のサイクル①「省みる」～探究のサイクル②

探究のサイクル (時数)	学習活動	児童の考え(・), 活動の様子, 成果物
探究のサイクル① 「省みる」 (1)	○高齢者の元気の秘訣が「人と関わること」であることから、自分たちが関わることで元気にすることができないかという課題を設定する。	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者疑似体験や福祉授業を通して、高齢者の苦勞が分かったね。 ・インタビューをしたら、人との関わりが元気の秘訣だと教えてくれたよ。 ・私たちがもっと元気にしてあげたいなあ。
導入 「知る」 (1)	<p>○新聞記事から、わたしたちが高齢者に関わることで、元気や笑顔を届けることができることに気付く。</p>  <p>中国新聞 2019年10月12日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞に、高齢者との交流会の記事が載っているよ。 ・町の高齢者と一緒に遊んで元気や笑顔を届けてみたい。 ・ぼくたちにも交流会を開くことができそうだ。交流会を開いてみようよ。
課題設定 「観る」 (1)	○交流会を実現するための見通しをもたせ、指導者と共に学習計画を立てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者もそうだけど、ぼくたちも楽しめる遊びにしたいね。 ・どんな遊びだとそれが実現できるだろうか。
情報の収集 「探る」 (1)	○「高齢者もわたしたちも楽しめる遊び」について話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・視点をもとに出した遊びを整理してみよう。 ・視点は、「高齢者もわたしたちも楽しめる遊び」だったね。
整理・分析 「探る」 (3)	<p>○視点に基づき交流会の内容を検証し、交流会の目的を明確にする。</p>  <p>思考の整理においては、「ダイヤモンドランキング」を活用し、班で意見を交わしながら視点に合う遊びを順位化した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ピラミッドチャートが使いえそうだね。 ・視点に沿った内容になっているか検証してみよう。 <p>検証すると、視点に沿っていないという理由でできないと判断することもあったが、できるようになるための工夫を探そうとするグループも現れた。</p>

まとめ・表現
「創る」
(6)

- グループに分かれて交流会の準備をする。
- 海田町社会福祉協議会や海田町の高齢者を招いて、交流会を実施する。

- ・高齢者の方々が楽しんでいたね。
- ・高齢者の方々の感想を知りたいなあ。

交流会の様子



振り返り
「省みる」
(1)

- 自分たちと高齢者の見方・考え方の共通点・相違点を探る。
- 交流会について、交流会の満足度や問題点、高齢者福祉への見方・考え方の変容について振り返る。

新たな視点に気付いた児童

高齢者の感想をあらためてみると自分たちの思いとずこしちがうということが分かった。高齢者のもとよくしてほしいところとかをふまえて自分たちのこうしたよかたもいれたりして次の交流会は前のものよりも、もとよいものになります。

わたしたちは遊びが楽しいと思っていたからコミュニケーションをせんせんとれていながらと思うから、次は遊びはもうそれだけとコミュニケーションをもっとせたいと思います。おたがのアドバイスもいがしてできたらいいなと思います。

高齢者の人たちは、わたしたちと遊びふことが楽しいと思うけど、話すことも楽しいということに気づいた。だから、もっと遊びながら楽しくおしゃべりしようと考えた。

見方・考え方の変容（メタ認知の高まり）

「交流会前の自分・高齢者のイメージ」と「交流会後の自分や実際の高齢者のすがた」をくらべると…

・高齢者…体の悪いばかり？元気がない？ → 体の悪い人はいたけど、ほとんどの人が元気！

・わたしは交流会を通して、高齢者は耳や目が悪い人はかりたけど、それでも元気な人が多く、わたしも元気に楽しくできた。

？高齢者のために、ほかにはできることはある？(たとえば…また交流会をやる！)

7 本時の展開

本時の目標		
<p>交流会を振り返り、改善するための手立てについて、自分と違う友達の考えを受け入れながら考えることができる。</p>		
学習活動	指導上の留意事項	評価規準 (評価方法)
<p>1 前時の振り返りから、本時の学習活動を確認し、本時のめあてを設定する。</p>	<p>○ 前時までにもった自分の考えをもとに、全体で交流し、深めていくことを確認する。</p>	
<p>めあて 交流会をさらによりよくする視点や考え方を見つけよう。</p>		
<p>2 交流会の改善につながる視点や考えを確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「うまくいった部分」「もっとこうしたらよかった部分」を確認する。 ・内容を考えるうえで大事な視点や考え方について話し合う。 	<p>○ 交流会前後を比較し、自分の思いが実現できたかや、高齢者のイメージと実際の姿のギャップに着目させる。</p> <p>○ 交流しているときの子供たちや高齢者の様子を提示し、高齢者の実際の姿を具体的にイメージできるようにする。</p>	
<p>3 本時の学習を振り返る。</p>	<p>○ 交流会を改善するための視点に着目させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・より高齢者の立場で考えられているか。 ・人との関わりが生まれるかどうか。 <p>○ 振り返りを深めるために、グループで共有したり、意図的に指名し全体共有したりする。</p>	<p>【③ーイ】 (発言・行動観察・振り返りシート)</p>
<p>ふり回り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者になると目が見えにくくなるとインタビューしたときに聞いたので、すぐろくのマスに書いてある内容を読んであげると、「ありがとう」と言ってくれて、楽しそうに遊んでいました。ぼくも楽しかったけど、高齢者の方が楽しんでくれたのでうれしかった。お互いの立場で考えて、どちらも楽しくできるのが福祉の考えにつながっていると思いました。 ・高齢者にはできないだろうと思って簡単にしたルールでやると物足りなさそうだった。高齢者にもできることがたくさんあることに気付いた。いくつかレベルの違うルールを用意しておく、ゲームみたいでもっと楽しくできるのかなあ。 ・コミュニケーションを取りながらできる遊びになっておらず、あまり話すことができなかった。次やるときは、コミュニケーションを取りながらできるルールや内容に変えていけばもっと高齢者と関わるができるかもしれない。 ・わたしたちにとっては楽しめるお題でも、高齢者にとっては分かりにくいものもあって、少し困っているように見えました。相手の立場で想像することが大切だと改めて思いました。 ・高齢者の方々に自分たちの遊びを楽しんでもらえて、ぼくも楽しかったです。でも、交流会を1回するだけで、ぼくたちの課題を解決できるのかなあ。海田町全体でこんな取り組みができたらいいな。 		
<p>4 学習の振り返りをもとに、次のサイクルへの課題意識をもつ。</p>	<p>○ 高齢者の方々が、次の交流会を楽しみにしていることをアンケート調査から伝え、これからの学習への意欲を高めさせる。</p>	

8 板書計画

9/20(金) 西のチカラプロジェクト～みんないきいき!住みよい町づくりを目指して①～

① みんなでふりかえり, 交流会をさらによりよくする視点や考え方を見つけよう。

うまくいった!

- ・読みにくい文字を読んであげると, こまることなく楽しんでいた。
- ・私たちは楽しめた。
- ・高齢者も楽しそうだった。
- ・ルール説明をうまくすると, スムーズにできた!

⋮

けど

もっとこうしたらよかった

- ・高齢者には分かりにくいものがあった。
- ・たくさんコミュニケーションができるルールや内容にしたい。
- ・高齢者にもできることがいっぱいある。

⋮



交流会をもっとよりよくするための視点

より高齢者の立場で考える

関わりがうまれるもの

海田町内で
交流する機会を増やしたり,
日常にしたりするには…?